

平成 30 年度 中央地域包括支援センター自己評価報告書

		包括情報	
自己評価実施日	平成30年12月17日	法人名	医療法人 王子総合病院
行政評価実施日	平成31年1月17日	責任者	高木 英克
運営協議会開催日	平成31年2月6日	所在地	苫小牧市若草町3丁目4番8号
		連絡先	0144-36-3712

地域情報	
担当地区	旭町、一本松町、入船町、王子町、大町、表町、春日町、木場町、寿町、幸町、栄町、汐見町、清水町、新中野町、末広町、錦町、晴海町、船見町、本町、本幸町、緑町、港町、元中野町、若草町
高齢者人口	6,021 人(H30.10.1現在)
高齢化率	28.6 %(H30.10.1現在)
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の中心部で、交通の便もよく公共施設はあるが、スーパーなど買い物場所が少ない。 ・低所得者の多い市営住宅と戸建てやマンションなどが混在する地域 ・新旧アパートも多く入居者の入れ替わりもあり、なかなか地域活動に結びつかない地域もある ・医療機関が多く通院などの便利は良く、多種の施設もあるが、サービス付き高齢者住宅や共同住宅などは少ない。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 2 人	常勤職員 4 人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 1 人
社会福祉士 1 人	
その他 0.2 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 5.7年

総合評価	
自己評価	行政評価
<p>職員の補充ができず今できることをこなしているような状況で、計画的な活動が行えない現状にある。職員がみんな限界以上の仕事を行っており、対象者に迷惑をかけないか不安を感じている。</p> <p>また、相談内容複雑化し、家族支援も増え、より専門的な支援が求められてきていると実感している。</p> <p>全体として個別支援はできても地域づくりまでは…難しいと感じている。</p>	<p>個別ケースの対応等、様々な関係機関と連携を密に支援展開をしている。今後も職員のスキルアップを図りつつ、実施した地域ケア会議等が出た課題を整理し、地域づくりへの発展に努めていきたい。</p>

評価項目		
1 運営体制		
	(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている	
	(2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している	
	(3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている	
	(4)個人情報含む記録物を適切に保管している	
	(5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している	
	(6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている	
	(7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている	
	(8)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りがない(占有率50%)未満	
	(9)相談・面談室のプライバシーが確保されている	
	(10)休日・夜間の連絡体制が整備されている	
	自己評価	行政評価
特記事項	(2)実施はしているも、個々が多忙により計画的には開催できていない。 (7) 苫小牧市の指定基準は満たしているが、人員が少ない状況は継続している。(応募がない)	事業計画の周知を全職員に行ったことは評価する。多忙の中職員の理解共有をどのように図っていくか、今後に期待する。
2 共通的支援基盤構築		
	(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている	
	(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている	
	(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている	
	自己評価	行政評価
特記事項	(2) (3) 圏域ケアマネ会などでの情報交換や民生委員等とのやりとりから情報収集等を行っているが、それだけを目的に行っていない。また、資源を活用するときに運用方法など協議しながら行っている。	地域の実態にあわせた資源の改善等形にならない現状はあるようだが、意識した把握はしており、今後の具現化に向けた取り組みに期待する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている		
(2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
	自己評価	行政評価
特記事項	(1)(2)困難、緊急性がある場合は、できるだけ複数人対応をするよう努めている。全体的に当センターと他機関との判断、評価、対応速度に差があることが多く、支援が長引くこともあり、今後改善のためのアプローチが必要と感じている。	情報共有の時間は少なくなったが、困難ケース等速やかな内部検討を行っている。その後の対応に個人差がでないよう経過の把握含め統制がとれていくことを期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
	自己評価	行政評価
特記事項	包括支援センター職員よりも経験のある主任ケアマネが多くいるため、役割分担を明確にするような働きかけを行っている。(包括でなければできないことと、地域包括ケアシステムの地域の主任ケアマネの役割等)	ケアマネジャーの力量に応じた支援を意識していることを評価する。各職員同様の意識で働きかけできることを期待する。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	<p>集団に適応できなさそうな人なども体操教室で受け入れ、状況把握してからサービスに繋げるなど、担当者と連携しながら広く活用している。</p>	<p>個人の状況に合わせ資源活用し、その後の継続支援につなげている点を評価する。</p>
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	<p>認知症のみならず、精神疾患の人も含めた支援を行っている。(社協、医療機関と連携をしながら)</p>	<p>サポーター養成講座等地域住民へのアプローチにつながらない現状があり、計画的な今後の取り組みに期待する。</p>
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	<p>法人内や職能団体のネットワークを活用し、スムーズな連携が図れるよう努めている。</p>	<p>医療機関、介護事業所とのスムーズかつ速やかな連携が図られている。医療関係者を地域ケア会議に招く等意識し行っている。</p>

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている		
特記事項	自己評価	行政評価
	アンケート調査や地域ケア会議などから政策提言に結び付けられるよう活動を行っている。	政策提言に結び付くためには何をどうするとよいか、意識的に動いていることは評価できる。今後コーディネーターとより情報共有を密にし地域づくりをすすめていくことを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特記事項	自己評価	行政評価
	現状でできる必要なことは行っているが、他業務、人員などの問題から、積極的な展開はできない現状。	必要に応じ個別に対応している。介護予防に関する積極的な地域展開は図れていない状況があり、今後地域に合わせた取り組みを期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容
居宅事業所と連携しながらカンファレンスを開催したり、地域ケア会議に至らなくても課題解決に取り組んでいる。
2 今年度事業の達成状況及び成果
職員不足から当初計画(構想)から達成できていないことが多いため、改善が必要と考えている。
3 達成できた又は達成できなかった原因
職員の入れ替え、補充ができず、全体的な機能低下が見られること。 業務の多様化、相談内容の複雑化、困難ケースの増加などから、定期的、計画的な活動が困難な状況。
4 課題及び今後の取組み
地域包括支援センターが浸透していくにつれ、包括でなくてもできることまで依頼される現状を改善するための他機関への周知、システムづくりが課題であり、業務改善に向け他地域包括支援センターと協働し、関係機関との連携強化を進めていく。